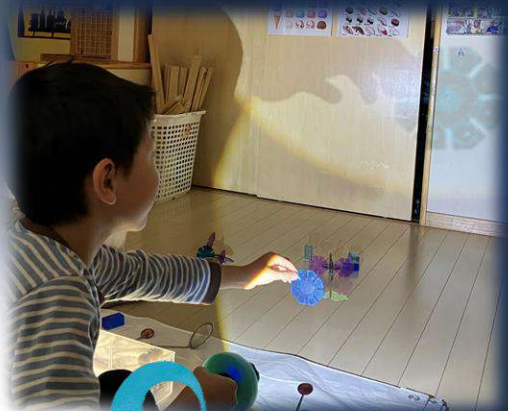


光 HIKARI

令和6年度もすくわくプロジェクトのテーマの1つとして取り組んでおり、懐中電灯で光を当て、影の大きさや色に興味を持っていたり、窓から差し込む太陽の光の形や透明な物がキラキラと輝く事に気付く姿が多く見られた為、引き続きテーマとした。また、3年前ほどから本園で実施しているセンサープレイの1つのコーナーとして取り入れる事で、毎回違う世界観で、没入して遊んでいる為、テーマに選びました。



子どもの姿

- ・光を通すパーツと光を通さないパーツを並べて光を当て、影の色を比べながら「なんでこっちは赤いのに、こっちは黒いのかな？」と問いかけると、「こっちは透けているから赤く見えるんだよ。」と答えていた。
- ・懐中電灯にスケルトンのパーツを置き、そのまま天井に当て、天井に模様が出来のを楽しんでいた。



年に数回行う事で、普段から、太陽の光がつくる影に関心を持ったり、気付く姿が見られた。懐中電灯やライトパネルは、毎回使用するが、それと一緒に、砂や水、紙などを使用する事で、影だけでなく、見え方に興味を示す子もいた。リラックス効果もあるのか、寝転がりながら、友達と、「キレイだね」などと話しながらゆったりとした時間をとる子もいたので、引き続き続けていきたい。

実施：7月 10月 12月 3月 計4回

- ・室内では、部屋の奥の方にコーナーを作り、暗い中で懐中電灯やライトパネルの光で事物を観察できるようにしたり、窓際のコーナーでは、太陽の光を事物に当て、影を観察できるようにした。
- ・光を通す物と、通さない物を用意し、素材の違いに気付けるようにした。

